

東北・福島+埼玉=福の玉 が生まれ、ゆっくりふくらんでいきますように...

5月&
6月号

福玉便り

2024年5月1日発行

ふ く た ま だ よ り

通巻 第108号

発行:『福玉便り』編集委員会 NPO法人埼玉広域避難者支援センター・(一社)埼玉県労働者福祉協議会

協力:生活協同組合コープみらい埼玉県本部

連絡先:NPO法人埼玉広域避難者支援センター 〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤 6-4-21 ときわ会館1F TEL0120-60-7722



上尾シラコバト団地「黙祷の会」

3月11日、東日本大震災追悼式・黙祷の会が上尾市龍山院で行われました。主催は、東日本大震災に咲く会ひまわり、協力は絵手紙ふさの会、つなげよう花の心実行委員会、さいたま共にあゆむ会、福玉便り編集部。

東日本大震災に咲く会ひまわりの橘光顕さんから依頼をいただき、編集部から編集長・原田と吉田が式辞を述べさせていただきました。その時に、橘さんは「これまでの追悼式では、地震津波など、あの時にお亡くなりになった方々への追悼の気持ちを含めていましたが、13年も経つと、避難した土地でお亡くなりになる方も増えてきています。そういった方への思いも込めたい」と語



つておられました。また、「あの時の選択を、何年も経つてからやっと言えた、という方もいます」というお話もしてくださいました。きっと、同じ思いを抱える方もおられるのではないかと思います。

当日は、およそ40人の参加者が集まりました。心のこもった追悼の詩の朗読と、追悼のピアノ演奏のあと、式辞では、「福玉便り」編集長・原田が、哀悼の意を述べました。編集長として「葛藤の連続」であること、多様な避難者の方々に向けてどのような誌面を作るべきか、役目を終えたのではないかと...と思ひ悩みつつも、「毎号元気をもらっています」という声、「福玉便りをみて、相談会に参加した」という方にお



会いすることがある、と

いうことから、「福玉便りを送り続けることが、微力ながら今の自分にできること」「福玉便りを通して岩手・宮城・福島の多くの方々との繋がることができたことが、迷いの多い支援活動の中での救い」と13年間で繋がった人々への感謝とともに述べました。式辞の後に、龍山院住職による撞鐘と同時に黙祷。その後、即興詩が披露され、ひまわり副会長の小島絹代さんの主催者挨拶がありました。元旦の能登半島地震の被災についても、橘さんは心を痛め、「まだ映像は観られないです」とおっしゃっていました。それでも、被災地に思いを馳せておられたことが心に残ります。13年が経ち、いろいろな思いを抱えておられると思います。必死に生きてこられた13年だと思います。被災・原発事故後の人生が現在も続く中で、さまざまな選択を繰り返させられているというのを、鐘の鳴る龍山院で考えていました。

(編集部・吉田)

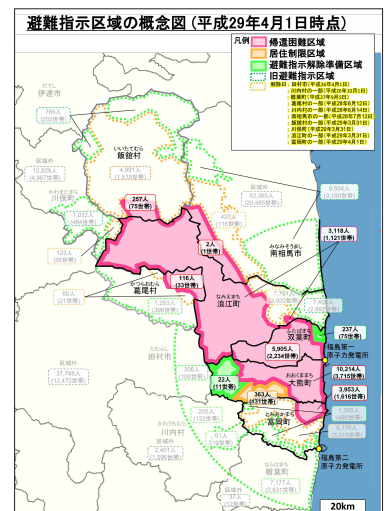
福玉相談センターの相談日が変更となりました

福玉相談センター：電話 0120-60-7722 (フリーダイヤル)

メール：fukushima_soudan@yahoo.co.jp

相談日：火曜日 (17:00-21:00)、水曜日・木曜日 (9:30~16:30)

福玉相談センターの開所日は、2024年4月から当面の間、火曜日 (17:00-21:00)、水曜日・木曜日 (9:30~16:30) となりました。なお、メールでの相談は随時行っております。こちらから折り返しご連絡しますので、差し支えなければ、連絡先をメールの文面に記入していただくようお願いいたします。ご迷惑をおかけしますが、ご理解のほど、よろしくお願いいたします。



「避難」
の
現在。

『福玉便り』編集部では2013年以来、毎年1月に埼玉県内の市町村を対象とした避難者数調査を実施し、2023年は2,467人という結果が出ました(『福玉便り』2023年5&6月号(通算102号))。東日本大震災と福島第一原発事故から13年を迎えた現在、埼玉県内に何人の方が避難されているのでしょうか。(編集部／福玉支援センター・原田)

■埼玉県における避難者数の推移

『福玉便り』編集部／福玉支援センターでは、今年も2024年2～3月埼玉県内の全63市町村を対象とした避難者数調査を実施し、すべての自治体からご回答をいただきました。お忙しい中ご協力いただいた担当課の皆様に、御礼を申し上げます。

その結果を合算すると、2、320人（992世帯）となりました。これに対して、埼玉県庁の発表数は2024年2月時点で2、334人となっています。

過去11回の結果と比較すると、

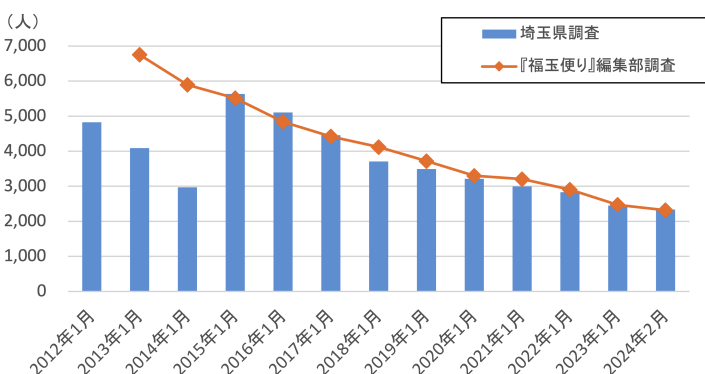
■埼玉県への避難者の数と経緯

次に避難元に着目すると、大まかに3つの地域に分けることができます。

2013年から避難者数が微減を続けていますが、急激な減少も見られません。しかし、避難者数が増加している自治体も4つありました。避難者の方が埼玉県に移動された場合や、避難元から家族を呼び寄せた場合、あるいは自治体が集計方法を変更した場合などが想定されます。

今回の避難者数調査は各自自治体によって集計時期が微妙に異なりますが*、埼玉県の調査結果とほぼ同じ数字となりました。

* 各自自治体の計数時期は異なっており、2024年1月（4件）、2月（42件）、3月（13件）、2023年12月以前（4件）となっています。



 帰還困難区域：放射線量が非常に高いレベルにあることから、バリエードなど物理的な防護措置を実施し、避難を求めている区域。

居住制限区域：将来的に住民の方が帰還し、コミュニティを再建することを目指して、除染を計画的に実施するとともに、早期の復旧が不可欠な基盤施設の復旧を目指す区域。

避難指示解除準備区域：復興・復興のための支援策を迅速に実施し、住民の方が帰還できるための環境整備を目指す区域。
↑区域の説明：ふくしま復興ステーションのWEBより。

・福島県内から国や自治体の指示によって避難した、「強制避難」の方々。2011年4月に全域もしくは一部が「警戒区域」「計画的避難区域」「緊急時避難準備区域」に指定された、浪江町・双葉町・大熊町・富岡町・楢葉町・葛尾村・南相馬市・川内村・飯館村・川俣町・田村市・広野町の12市町村からの避難者数を合計すると、今回の調査の判明分で1,690人になります。

・国や自治体の指示とは別に、原発事故の影響で福島県内から「自主避難」した方々。郡山市・福島市・いわき市など、右の12市町村を除く福島県からの避難者数を合計すると、今回の調査の判明分で348人になります。

・地震・津波・放射能被害によって、宮城県・岩手県・茨城県・栃木県・千葉県から避難した方々。これらの県からの避難者数は、今回の調査の判明分で109人になります。

もちろんこれらの区分けは便宜的なものであり、避難指示区域の再編によって「強制避難」と「自主避難」の境目も曖昧になりました。あくまで大まかな傾向として、埼玉県内には3つの異なる地域事情を背負って避難している方々がいること、その上で個々の生活事情に応じた避難生活があることを、再度確認しておきたいと思います。

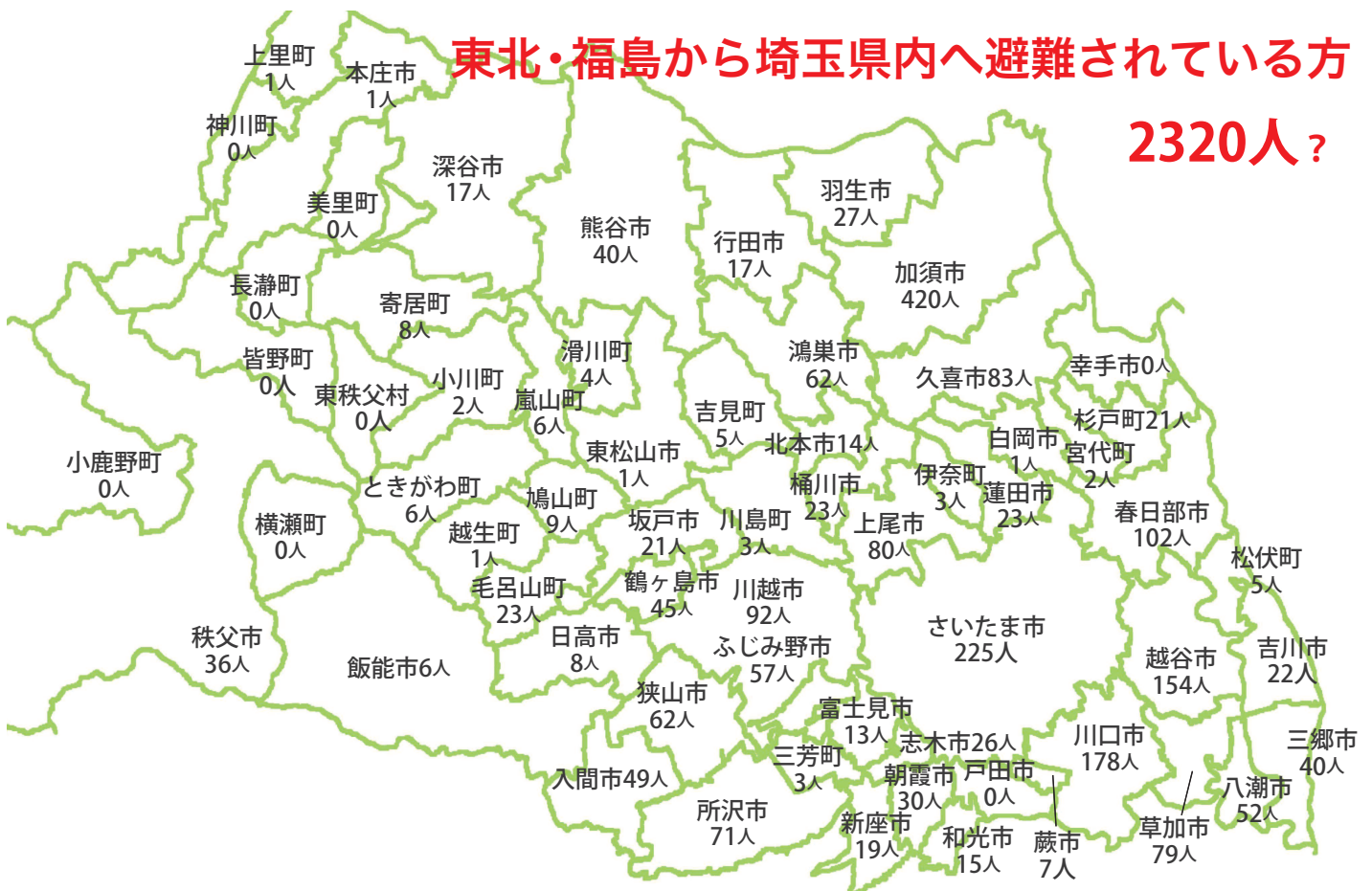
■避難者数の実態把握へ向けて

今回の避難者数も、受入自治体が把握しているデータを合算したものです。他方で表は、避難者が多い浪江町、双葉町、大熊町、富岡町の各自自治体が公表している埼玉県への避難者数と、今回の調査結果を示したものです。これまで同様に、富岡町以外では避難元自治体が把握している避難者数が大幅に多いことが分かります。避難者の定義や集計方法が、国（復興庁）、福島県、福島県各自自治体、避難先自治体によってバラバラであるため、避難者の状況が統一的に把握できていない状態が続いています。

埼玉支援センターでは避難者数の実態把握について問題提起しており、今回の調査でも、各自自治体の集計方法について詳しく尋ねました。その結果は、次号にて改めてご報告する予定です。

	浪江町	双葉町	大熊町	富岡町
埼玉便り調査 (2024年1-2月)	305	556	255	224
避難元自治体公表数 (2024年2月現在)	638	743	334	236

東北・福島から埼玉県内へ避難されている方 2320人？



311を忘れない双葉の会

3月30日、加須市にて、「311を忘れない双葉の会」が開催されました。鶴沼久江さん、堀切さとみさん、渡辺政成さんが中心となり、1月20日に初回が開催されてからの2回目。会場がいっぱいになるほどのたくさんの方が埼玉県内外各地から参加されました。

この日のために準備された、菜の花や紫大根花のお浸し、カラシナの漬物、ゼンマイの煮物、よもぎ餅がふるまわれました。双葉で食べていたような食材を使っているの、懐かしく食べてほしい、と鶴沼さん。本当に美味しくてやさしい、春の味でした。

最初に、映画「原発の町を追われて・第一部」(制作・堀切さとみさん)が上映されました。改めて、大切な記録の映画です。双葉町の方々の、苦しみ、葛藤、率直な言葉が語られています。原発事故当時の映像に、参加された双葉町の方も、その頃の思い出を語ってくださいました。また、堀切さんからは「この映像には、亡くなってしまわれた方もおられます」と13年の経過、映画の背

景などを語ってくださいました。

私(吉田)からも、浜通りで行われている、イノベーション・コースト構想についてお話をさせていただきました(以前、福玉便りにも寄稿しましたので、ご関心のある方はエムでご覧になつていただけたらありがたいです)。「聞いてない」「知らなかった」という声もあり、改めて、その土地を大切に思う方々の声を丁寧に聞いたうえで、「復興」を進めてほしいと強く思います。

映像作家の小池美希さんも参加され、「福島を聴く、見る、測る」2023」も上映されました。この映像は、婦人国際平和自由連盟(WILPF)さんが福島の現地を訪れた記録動画です。現地で測定や検証の活動をされている方々のお話などを、とてもわかりやすく丁寧にまとめた貴重な動画です。

Youtubeでも公開されているので、ぜひご覧になってください。(QRコード参照)



懐かしい笑顔がたくさん見られる会場でした。5月18日にも開催されるこのことです。真剣に映像に見入る時間もありつつ、つながりの温かさにはっとする時間をいただきました。(編集部・吉田)



原子力損害賠償・廃炉等支援機構 原子力損害賠償に関する説明・個別相談会のご案内

原子力損害においてお困りの皆様

第五次追補等を踏まえた追加賠償の請求がお済みでない方も、ぜひご相談ください。今回の追加賠償は、自主的避難等対象区域の方々も対象となります。 ※ 個別相談・請求書作成支援は、必ず事前予約をお願いします。 ※ 相談は無料です。

●開催日 令和6年6月1日(土)

午前10時～午後4時【休憩：午前12時～午後1時】

●会場 シアター1010 千住ミルディスI番館

ガラス棟4階G404会議室

住所：東京都足立区千住3-92 北千住マルイ11階 視聴覚室

★10:00前にご来場いただく場合、マルイが開店しておりませんので、店舗正面左手2Fの入口よりお入りいただき、エレベーターにて11階までおこし下さい。

※ 専用駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。

●弁護士による個別相談 10:00～16:00

☐ 原子力損害賠償全般のご相談に対応致します。

☐ 原則として、相談時間は1回1時間(時間予約制)

●行政書士による請求書作成支援 10:00～16:00

☐ 追加賠償の請求書をお持ちください。

☐ 追加賠償の請求書のみ作成を支援致します。

☐ 請求書へはご自身でご記入をお願いしております。

●専門家へご相談ください。

- ・請求漏れがないか相談したい方
- ・住居確保にかかる費用の賠償請求について相談したい方
- ・ADRの申立てについて相談したい方 など

●連絡先

☐ ご相談をご希望の方は、事前予約をお願い致します。
予約専用ダイヤル 0120-330-540

受付時間：9:30～17:00 土日とも受付(祝休日を除く)

☐ ご来場が難しい場合は、電話相談をぜひご利用ください。
電話相談ダイヤル 0120-013-814

対応時間：10:00～13:00、14:00～17:00 月曜～土曜(祝休日を除く)

・行政書士による電話での情報提供(事前予約不要)

・弁護士による電話での相談は、祝日を除く毎週火・木曜 10:00～13:00(事前予約制)

中間指針第五次追補等を踏まえた追加賠償について

中間指針第五次追補等を踏まえた追加賠償に関する最新の情報は、東京電力のWebサイト(右下のQRコード)で確認、又は、東京電力のご相談専用ダイヤルにお問い合わせください。

東京電力ご相談専用ダイヤル 0120-926-470

9:00～19:00(月～金(除く祝休日))

9:00～17:00(土・日・祝休日)



「よろず健康相談会」

@With You さいたま開催報告

埼玉広域避難者支援センター

さる2024年3月10

日さいたま新都心の「With You さいたま」において、牛山元美医師による甲状腺検査をはじめとする「よろず健康相談会」が開催されました（埼玉広域避難者支援センター主催）。当日は16名の避難者の方にご参加いただきました。日頃、甲状腺に健康不安を抱える方々に、牛山医師はひとりで10分以上かけて検査や丁寧な所見や結果の説明をしてくださり、受診した皆さんは穏やかな表情で検査スペースから出ておられました。その傍らでは検査の順番を待つ間に、子育て世代のお母さんたちのがん検診受診率向上を目指す活動等を行っている「一般社団法人シュフレ協会」の方による乳がん等に関する相談も行われました。参加された方の中には順番を待つ間や、甲状腺検査終了後も、待合スペースのテーブルに置かれた茶菓をつまみながら同じテーブルの方々と談笑されたり、おみやげを交換するなどの交流もあり、とても和やかで賑やかな健康相談会を開催することができました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました！



今号の発行は、生活クラブ生活協同組合埼玉の皆様のご支援をいただきました。ありがとうございました。

生活クラブの取り組み ～暮らしの安全を求めて～

生活クラブ生協では2012年から子どもの健康状態を知るため、経年的な甲状腺検査活動を実施しています。検査実費及び受診する子どもと付き添い1名分の交通費実費はカンパ金より拠出していきます。原発事故から13年が経つ今だからこそ、甲状腺検査活動をより多くの方々に知ってもらおう努力が必要だと思っています。

私たちの生活クラブ生協埼玉では、サステイナブル政策委員会を中心に、「食べ物」の遺伝子操作への反対」「有害物質ゼロをめざすこと」「自然資源を大切にすること」「ごみとCO2の削減への取り組み」「原発のない社会をめざすこと」「平和と民主主義の社会をめざすこと」「復興支援活動」をテーマにいろいろなことを学びながら暮らしやすい社会・持続可能な社会づくりを目指して活動しています。これからも皆さまと共に活動

していきたくないと願っています。
生活クラブ埼玉
サステイナブル政策委員会

生活クラブ生協埼玉本部で、2024年3月28日・29日に甲状腺検査を実施しました。2024年2月16日には、3・11以降福島によりそい、取材を続けてこられたジャーナリストの白石草（しらいしはじめ）氏（認定NPO法人Our Planet-TV代表理事）を講師に迎え事前学習会も開催しました。「3・11子ども甲状腺がん裁判」の現状報告や甲状腺がん患者の現状や治療の過酷さや後遺症で苦しむ若者

の悲痛な訴えを聞き、成長した子ども達もできれば節目の年（25歳30歳）だけでも再度検査するよう呼び掛けていきたいと思いましたが、また、甲状腺検査活動だけでなく私たちにできることは何かを考えるいい機会となり、サステイナブル政策委員会でも今後の活動内容を更に充実させていく予定です。



オンライン学習会



甲状腺検査

各地の 交流会など

新型コロナウイルスの感染拡大により、交流会の流動的な状況が続いておりました。昨年5月には感染法上の分類が「5類」に引き下げとなりましたが、各交流会の感染対策については連絡先にお問い合わせください。なお、各交流会に参加される方は、引き続き体温測定の上でご参加いただき、参加中は消毒や換気にご協力ください。

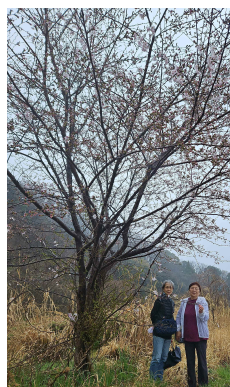
①	加須市	双葉町民によるボランティアカフェ	090-5356-8778 (鶴沼さん)
③	加須市	双葉町手芸教室	080-5532-7380 (薄井さん)
⑤	加須市	すくすくのあそびひろば	090-2411-8598 (戸恒さん)
⑥	加須市	オバトン	090-6526-8560 (藤井さん)
⑧	上尾市	東日本大震災に咲く会ひまわり	080-3091-6215 (橘さん)
⑩	熊谷市	くまがや結の会	090-7661-9236 (林崎さん)
⑬	越谷市	あゆみの会	090-9425-2001 (石上さん)
⑮	川口市	ひまわりの会	080-5431-0123 (島田さん)
⑲	さいたま市	さいがい・つながりカフェ	080-5532-7380 tunagari.saitama@gmail.com
⑳	新座市	新座つながりカフェ	090-2402-9155 (谷森さん)
㉑	ふじみ野市	おあがんなんしょ交流会	090-5345-8408 (松舘さん)
㉒	川越市	ここカフェ@川越	070-5080-4494 (鈴木さん)
㉓	さいたま市	玉兔の会	090-6128-1948 (小林さん) https://gyokutonokai.wixsite.com/2018

③【双葉町手芸教室】

5/15 (水)、6/19 (水) 10:00～12:00
双葉町社会福祉協議会加須事務所
080-5532-7380 (薄井さん)
*4月から第3水曜日開催になりました。
場所と時間は変わりません。

⑥【オバトン】

5/14 (火)、5/23 (木)、6/11 (火)、
6/27 (木) 10:00～15:00
キャッスルさい2階調理室
(ぬり絵教室は2階研修室で11:00
～13:00、ハーモニカ演奏・合唱は木
曜のみ1階多目的ホールで10:00～
12:00) 090-6526-8560 (藤井さん)



㉑【おあがんなんしょ交流会】

5月・6月の「おあがんなんしょ交流会」はお休みです。
4/6に10年前に植樹した「おあがん
なんしょの桜」に会いに行きました。
植樹場所はいわき市鹿島町米田
の6号線沿です。お近くに来られた
ら、お立ち寄り下さい。090-5345-
8408 (松舘さん)

㉒【ここカフェ@川越】

5・6月もいつも通り、皆
さんのご都合を聞きな
がら交流会をJUNホー
ルで開催します。
pororon311@gmail.co
070-5080-4494 (鈴木
さん)

⑲【さいがい・つながりカ フェ】

5/9 (木)、5/23 (木)、
6/13 (木)、
6/27 (木) 11:00～15:00
WithYouさいたま和室
080-5532-7380、
tunagari.saitama@ga
il.com

第12回 福島復興まつり

3月29日、ウエスタ川越にて、第12回福
島復興まつりが開催されました(主催 N
PO 法人 Peace やまぶき/協力…ぼ
ろろん(自主避難者の会)、後援…川越
市・川越市教育委員会)。バザールでは手作りの小物、陶器や
洋服、絵葉書、農産物やお菓子、冊子や書籍などが販売されて
いました。



午前中は、避難指示区域外から避難をしたいいわゆる「自主避
難」の母親たちのトークがありました。3人の「自主避難」を
経験したみなさんは、原発事故前の暮らし、原発事故後のこ
と、一番つらかったこと、13年経って、あの頃の自分にかけた
言葉などを話してくださいました。

原発事故前の農家の暮らし、地域の暮らしの様子、原発事故
が起きて、見ず知らずの土地に突然来ることになり、最寄りの
役場も小学校もわからなかったこと、避難先を決めるのに埼玉
では当初「自主避難」者のための受け入れ態勢がなかったこ
と、必死に避難先を確保していたために、子どもの顔を入学式
の入場の際に初めてじっくりみて、その不安そうな表情に涙
したことなど、それぞれのご経験を振り返りながら、大切なお
話を語ってくださいました。

午後は、ぼろろん代表の鈴木直子さんによる「原発事故から
13年 福島の今、その未来」と題した講演がありました。原発
事故の不条理さを、写真やデータをもとに、丁寧に伝えてくだ
さいました。また、ご自身の経験を交えながら、防災の大切さ
にも触れ、50人以上の参加者が真剣に耳を傾けていました。

今なお、埼玉県内にも、避難指示区域外、いわゆる「自主避
難」の方々がたくさんおられると思います。たとえ、生活再建
が順調にすすんでも、ふとした時に、落ち込んだり、何か
のきっかけで、つらくなったりすることもあるかもしれませ
ん。それぞれ13年、頑張ってこられたご自身のことを、心から
労わってほしいと願っています。

(chiayoshida52516@gmail.com /吉田千亜)